

## 「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学理学部2年 中野 葵

①③に記した内容のような、他の国の留学生や浙江大学のボランティア学生さんと交流する機会には多く英語を用いました。そのため、中国語と同時に英語を学ぶモチベーションがかなり上がりました。

②中国は独自の SNS や検索エンジン、決済方法が普及していて、日本で一般的に使用されている物が多く便利には使えないという状況がありました。ネットが世界中に広く普及しているからとって、中国ではそれらが便利と直結するわけではないという、直観的ではない状況を実際に体験できたことは、私にとって非常に良い学びでした。また、大学のある発達した市街地では見ることのない景色ですが、飛行機から見下ろす景色には未開発の広大な土地や、開発途中の高層ビルで、全く同じ形のものが集結している様子があり、発達状況のグラデーションを目の当たりにしました。そして週末に訪れた南京・上海・紹興では、言葉や物価、街並み、交通システム、観光客層などにそれぞれ大きな違いをみることができました。大学のある杭州では物価が基本的に日本より安く、特に食堂では 200 円ほどでおいしい中華料理を満腹食べることができました。

③先生の話す内容の 95% が中国語という状態で、授業が進んでいきました。町中の人よりは随分ハキハキゆっくりと聞き取りやすく話してくださる印象です。このプログラムの参加者は、長期留学生の中に混ざって授業を受けます。しかし、私たちが授業に参加しはじめるのが、長期留学生たちのクラスが入れ替わり新たな学期が始まるのと同様なので、クラスメイトはそれぞれがほぼ初対面の状態で、短期長期関係なくとても仲良くなれました。東京大学や大阪大学、タイの大学から同じ短期のプログラムで来た人達とは、同じ行程で移動するので仲良くなれました。また浙江大学は、授業が行われた玉泉キャンパスもですが、特に紫金港キャンパスがとてつもなく広いです。平日の午後に週二回、プログラムの一環で博物館や観光地に連れて行ってくださいます。目的地も素晴らしいところだらけでしたが、特に浙江大学のボランティアの学生さんとたくさん交流できた点で良い機会だったように思います。

④今プログラムへの参加によって直接的に進路に影響が出ることはなさそうですが、今プログラム等を通して現在大学で学びたいと思っていることに加えて中国語や中国文化・中国史を学ぶ意欲を得たため、これからの私の思考回路や行動心理の一要因を担う可能性から、今プログラムが私の進路に間接的な影響を与えることはおよそ間違いないのではないかと思います。